九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[E.山村の経済構造と林業発展の研究]1.椎茸生産の展開

吉良，今朝芳
九州大学農学部附属演習林 ： 助手

塩谷，勉
九州大学農学部附属演習林 ： 教授

高杉，和雄

https://doi.org/10.15017/1456345

出版情報：演習林研究経過報告. 昭和44年度, pp.32-33, 1970. 九州大学農学部附属演習林
バージョン：
権利関係：

Ⅲ　山村の経済構造と林業発展の研究

1　椎　茸　生　産　の　展　開

吉良今朝芳・塩谷勉・高杉和雄

この研究では、わが国の山村で、主として農民の商品生産として発展してきている椎茸生産の構造と、その歴史的展開過程を明らかにし、それが林業ないし山村経済の発展といかなるかかわりをもつているかを考察する。

椎茸生産の形態は、専業的生産と兼業的生産とに大別されるが、前者については熊本県球磨地方を昨年取り上げ究明した。そこで今年は後者の農民的生産の展開過程を宮崎県諸塚村にもとめ、資料の発掘蒐集と古老および椎茸生産者２１名に対する戸別調査を実施した。

諸塚村の椎茸栽培は慶長１９年（１６１４）～元禄４年（１６９２）に、この地方を所領した有馬氏の記録である「国乗遺聞」に、臼杵郡の小物成の１つに「椎茸２斗４升」と記されている。また文政頃の「椎茸売渡し控え覚帳」さらに「日向地誌」などから、この地方において相当量の椎茸が産出されていることが記されており、椎茸栽培の沿革い古いことがわかる。しかし農民が本格的に椎茸の人工栽培をはじめたのは明治以降である。

大正期にはいると、山村への貨幣経済の浸透に伴つて、総地籍の７６％を占めていた焼畑は、自給作物と自生茶の生産から自給作物と椎茸原木林の造成という展開がみられる。例えば大正１２年の諸塚村の総造林面積は１５９.４町歩で、そのうちクヌギが１３４.８町歩（８５％）と、大部分を占め、残りの１５％がスギ、ヒノキの造林である。こうして農民による椎茸生産の基盤は大正期から造成され、これが戦後椎茸生産の発展を可能にした。

椎茸生産の形態は茸山師による専業的生産と農民による兼業的生産とに大別されるが、前者は藩制期から明治・大正期にかけて、多くの地域で官・公・私有林を対象に大規模な椎茸生産の展開がみられる。しかしその後官・公有林の人工造林の進展と椎茸栽培技術の普及および農民による主産地形成の展開に伴つて、その地位は次第に弱まつてきている。また後者の農民による椎茸生産は、木炭とは異つて、当初富農層を中心に展開され、しかも規模が大きくなるとかなりの雇用労働に依存し、企業的経営に似てくるものも少なからずであるが、一般的には経営規模の拡大は家族労働量の範囲内にとどまり、むしろ椎茸でえた蓄積をスギ・ヒノキの造林に注ぎこみ、人工造林地の拡大に積極的である。つまり椎茸生産を通じての企業化への上昇コースを辿ろうとしないで　富農地主型のいわゆるユンカー型経営を指向している。

最後に農家の椎茸生産技術の優劣をみるため、その指標に　付率を用いて分析すると、大規模層が６０～８８％を示しているのに対比して、中規模層は４６～８６％、小規模層は３２～７０％と、生産規模が小さい層にいくにしたがつて椙付率の低下を示していることが明らかになつた。

発　表

1）椎茸生産と林業発展に関する研究(1)、昭和４４年４月、第８０回日本林学会大会講演集

2）椎茸生産の協業について、昭和４４年１０月、日本林学会九州支部研究論文集

2　椎茸の主産地形成(I)

吉良今朝芳・塩谷勉

まえがき

この研究は、九州地方における最近の椎茸生産を中心とする主産地形の進展と、その背景、そこでの経済主体の役割などを明らかにし、農林業構造の変化、変質の実証的分析をおこなうことを目的とする（この研究は昭和４４年度科学研究費補助金総合研究 ―― 山村の経済構造と林業発展の研究 ―― 課題番号３６０２５の一部である）。

1.　全国的地位

椎茸生産は、戦後純粋培養種菌法による人工栽培が普及するとともに、北は北海道から南は鹿児島まで全国的に普及するにいたつた。とくに近年のわが国における椎茸生産の急増は表－１から明らかなように、まことに目覚ましいものがある。

表－１　　（単位トン）

種別／年次	乾椎茸	指数	生椎茸	指数	備考
34	2,697	100	5,610	100	
35	3,431	127	6,630	118	
36	4,912	182	9,150	163	
37	5,520	205	10.597	189	
38	5,837	216	15.073	269	
39	4,836	179	16,706	298	
40	5,371	199	20,761	370	
41	5,040	187	23,388	417	
42	6,250	230	29,078	518	
43	8,187	297	－	－	

注　林野庁調べ